

11

マネー

デフォルト(債務不履行)と問題解決に向けた考え方

～借金返済の滞り時こそ相手の状況をよく聞き、信頼関係の再構築を～

先日、朝刊の中に「プエルトリコがデフォルト」という見出しを見つけた。デフォルトと聞くとすぐにギリシャを連想してしまったが、プエルトリコという普段聞き慣れない国名に、デフォルト危機は一国だけが抱える問題ではないと改めて気付かされた。「デフォルト(default)」という言葉が辞書で引くと、「債務不履行」の他に「初期設定」や「初期値」という意味もあるという。返済義務の怠りを責める債権者と、一からの再出発を目指したい債務者。両者の思惑が見え隠れするようでとても興味深い。

ところでこのデフォルト(債務不履行)という状態だが、何も国だけに限った話ではない。消費者金融業界の場合、貸出先は個人の消費者になるが、やはり中には返済が滞ってしまう方も出てくる。当然、今後の返済について双方の主張をたたかわせることになるのだが、できる限り円滑な交渉となるように、いつも意識していることがある。それは「まず先に、相手方の話したいことを全

て聴く」、ということだ。

なぜ、相手の話を先に聴くことが必要なのか。理由は二つある。一つ目の理由として、債権者と債務者の力関係がある。借金をしている側は貸した側に対して、立場上どうしても弱い。ゆえに債権者から、実現不可能と思われる要求を突き付けられたとしても、相手を満足させようとしてその場しのぎの承諾をしてしまい、その結果、また債務不履行、という悪循環に陥ってしまう。

これでは債権者にしても望む結果が得られず意味がない。二つ目の理由は、信頼関係を再構築するためだ。返済を促す交渉というのは簡単なものではない。特に債務者の側にすれば、家計の苦しい現状において今後の返済について話をするということは、心理的にも不安や負担を感じるだろう。であるからこそ、債務者が今思い、感じていることなどを全て話してもらい、傾聴する姿勢が大切なのではないかと思う。そしてそこから双

方の信頼関係を再構築していくきっかけが掴めれば、自ずと双方共に納得できる結論に到達できるのではないかと、そのように思うのである。

日本ファイナンス有限会社
下関店 店長
松原 剛

AFP(日本FP協会認定)
TEL083-234-3544

<http://nihon-finance.com>

借金で苦しむ人への的確なアドバイスで定評がある、消費者金融のプロフェッショナル。弁護士の人脈、債務カウンセリング、真摯に相談に乗る姿勢が認められ、感謝の声が多数寄せられている。ラジオなどのメディア出演を通して、借財に対する正しい認識を広めている。

